

気仙沼普及センターだより

宮城県気仙沼農業改良普及センター

〒988-0181 宮城県気仙沼市赤岩杉ノ沢47-6

TEL : 0226-25-8068 FAX : 0226-22-1606

Vol : 155

令和5年11月24日発行

ひとつずつ 明日と未来の ふるさとへ!



表山田・三段田地区での活動風景



さつまいもの収穫作業



えだまめの販売



合意形成に向けた話し合い

「中間評価を受けて充実した普及活動へ」

総括次長 猪野 亮

本県における今年産米(十月二十五日現在)の作柄は、出穂後の高温等により一部で玄米品質の低下がみられました。一〇五の「やや良」となり、生産者の日ごころの努力が実を結び、実りの秋となりました。

去る八月三日、普及活動をより計画的かつ効率・効果的に実施するため、農業者や関係機関等の外部委員をお招きし、「令和五年度第二回普及活動検討会」を開催しました。

検討会では、本年度の最重点として取り組むプロジェクト課題三課題「気仙沼市本吉町表山田・三段田地区において、地域農業の将来の在り方の合意形成や高収益作物の導入を進める取組(写真)」、南三陸町の法人が、正月飾り等に利用される枝もの用クロマツの生産拡大等を進める取組、気仙沼市の法人が、四季成り(夏)いちごの生産を開始した取組―を取り上げ、計画に基づく支援や進捗をそれぞれ検討しました。

委員の皆様からの評価や貴重な御助言等につつましては、今後の普及活動に活かしていく所存でございます。

燃油や農業用資材の高騰が続いており、また、高病原性鳥インフルエンザの発生が懸念される季節となりました。国では、食料安定供給・農林水産業基盤強化に向けた緊急対応パッケージを経済対策に反映させることとしており、普及センターでは、情勢を踏まえながら農業経営の安定化に向けて、農業者の皆様と共に取り組んでまいりますので、お気軽に御相談いただければ幸いです。

農業士紹介

齋藤 憲介さん(指導農業士)



齋藤憲介さんは、宮城県農業短期大学を御卒業後、2年間の社会経験を経て就農しました。就農時より4Hクラブに加入して県連理事や地区連会長を歴任するなど、地域の若い農業者のリーダーであり、平成23年には青年農業士に認定されました。また、高い技術力と人柄から、農業大学校の先進農業体験学習や普及センター職員の先進農家派遣研修の受入れにも御協力をいただいています。

現在、気仙沼市赤岩地区できゅうりやトマトなどの施設園芸を中心に多品目の野菜を栽培しているほか、春は果菜類、夏はしょうが、秋はたまねぎの苗販売も行っています。野菜栽培においては味や鮮度を追求し、おいしい野菜を届けようと日々努力されています。ぜひJA新みやぎ直売所「菜果好」でお買い求めください。

齋藤さんから一言

関係機関の皆様と協力して、当地域の農業の発展に微力ながらも貢献していきたいと思えます。

新規就農者紹介

中村 未来さん



東京生まれの中村未来さんは、東日本大震災のボランティアをきっかけに南三陸町歌津に移住しました。被災地の暮らしを取り戻すための活動に取り組み、平成29年3月に合同会社でんでんむしカンパニーを設立しました。耕作放棄地を活用して藍を栽培し、自ら染色して藍の製品を制作・販売しているほか、藍染め体験をはじめ、農作業体験や薪割り体験などを提供しています。また、空き家を改修して民泊を経営されています。

中村さんから一言

藍は食べることもできる植物。お宿では藍を使った料理を提供していますが、今後はお土産等としても持ち帰れるような形の商品開発を行い、藍の魅力をより多くの方へ伝えていきたいと思っています。

管内農業法人紹介

- 株式会社西城菊花園(さいじょうきっかえん)
- 法人設立年月日:平成24年1月5日
- 役員数:4名(代表取締役:西城正人氏、取締役:3名)
- 生産規模:露地ぎく(180a)、施設ぎく(4,600㎡)
- 輪ぎく、スプレーぎく、小ぎく等を年間40万本程度生産
- 販売の特徴:自家生産のほか、生花市場から商材を仕入れ、自社で花束加工を行い、県内のコンビニ、スーパー、農産物直売所で販売しています。
- 雇用の特徴:役員4名の他に社員1名とパート社員5~15名(季節雇用)がおり、土日休みの週休二日制としている。さらにパート社員は水曜日も休みで、働く時間帯も個人の自由にしている。



西城代表から一言

平成23年に就農しましたが、仕事のやり方が分からなく、週休日がなく、毎日父親のいうことをこなしていましたが、このままではいけないと思い平成24年に家族経営から法人経営に転換して、仕事のやり方をマニュアル化し、誰でも仕事ができるようにして、定休日を設けることにしました。

当社で働いてもらうパート社員たちは、40代から70代と様々で、子育てや親の介護、孫の世話等をする人達なので、できるだけ勤務時間を自由にし、自分たちでできる範囲の作業を行ってもらい、不足分は役員がカバーすることとしています。

当社のモットーとして、貴重な人材に気持ち良く働いてもらうため、「明日休みます」と言いやすい職場環境作りが心がけております。

農産物品評会（花き）

令和5年10月22日、令和5年度宮城県花き品評会が宮城県庁を会場に開催されました。管内からは切り花、鉢物で合計9点が出品され、審査の結果、下記の4点が入賞しました。出品に御協力いただいた皆様、ありがとうございました。

受賞された皆様、大変おめでとうございます！

金賞

全国農業協同組合連合会宮城県本部長賞



南三陸町（輪ぎく）
遠藤 吉司氏

金賞

農林水産省農産局長賞



気仙沼市（シクラメン）
(株)気仙沼園芸 齋藤 正博氏

銀賞

南三陸町（クロマツ）
(株)南三陸 Pinepro 後藤 敏氏



銀賞

気仙沼市（シクラメン）
(株)気仙沼園芸 菅原 明文氏



気仙沼市（シクラメン）
(株)気仙沼園芸 菅原 明文氏

トピックス①

気仙沼大島で商品開発研修会を開催しました

令和5年10月4日、大島公民館を会場に、気仙沼大島ウェルカム・ターミナルで農林水産物や加工品等を販売する気仙沼大島地場産品出荷・販売組合を対象とした、商品開発研修会を開催しました（組合員16名が参加）。



研修会は、岩手県を中心に全国各地で農林水産物等の商品開発支援に携わる、(株)パイロットフィッシュの五日市先生から「小さな力の商品開発 ～お客様に選んでいただくために～」と題して、事例を交えながら商品開発の基本について、御講義いただきました。

本研修会は、全4回の研修をととして、気仙沼大島の地域資源を活用した商品を開発することを目標としており、参加者からは、「具体的な話が多く、パッケージの大切さを理解できた」、「地域の資源を見つめ直し、商品開発を行いたい」等の前向きな感想をいただきました。

普及センターでは、引き続き農産物の安定生産や商品開発の支援を行ってまいります。

トピックス②

郷土料理はっと講習会が開催されました

郷土料理である「はっと汁」は宮城県北の家庭でよく食卓にのぼる料理ですが、気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会の会員から「はっとを薄く綺麗にのぼす技術を修得したい」という声を受けて、令和5年9月12日、食文化の継承を目的に、地区連主催の「はっと講習会」が開催されました。当日は、会員24人に、市町担当者等関係機関も加わり総勢30人の参加がありました。

講習会では、はっとの生地づくりから始まり、小麦粉に水を加える加減や固さを確認しました。また、講師がはっとの生地を薄くのぼし、一口大にちぎって鍋に入れていく場面では、会員の皆さんが、講師の手の動きや指使いを習得しようと食い入るように見ていました。

実食ではお互いに料理の感想を述べ合い、その後の情報交換では、会員から各家庭で使う具材や味付け、はっとを次世代に継承するための取組についても意見が交わされました。

はっとは、会員皆さんが作り慣れている料理ですが、今回の講習会では、はっと生地の作り方や小麦粉の種類、ゆで方など改めて学ぶことが多く、とても有意義な講習会となりました。



令和5年11月1日、南三陸町で栽培されている枝もの用クロマツの収穫が始まりました。作業は11月20日頃まで続く見込みです。

今年の収穫初日は好天に恵まれ、11月とは思えない暖かい日差しのもと収穫が行われました。昨年度までは、クロマツを刈り取った後、ほ場内で古い枝や不要な松葉の除去が行われましたが、今年度は新たに建設された出荷調製施設内で枝葉の除去を行うため、ほ場では刈り取ったクロマツを適度な本数にまとめ、2tトラックで運搬するだけとなり、作業の効率化が図られています。

収穫されたクロマツは、出荷調製施設に運ばれて、枝葉を除去し、出荷規格毎に選別されたのち、12月の松の市まで保管されます。

普及センターでは、クロマツの出荷が終わるまで定期的に巡回し、作業上の問題点などを洗い出し、収穫・調製作業の改善に取り組んでいきます。



担い手に地域計画への理解を深めてもらうことを目的に、認定農業者、営農組合等を対象に地域計画に係る説明会が開催され、気仙沼市は83人(10月25、26、31日開催)、南三陸町は20人(7月13日開催)が出席しました。



説明会では、地域計画の概要や策定スケジュール等の説明が行われ、参加者からは、「営農意欲があっても経営規模が小さければ農地を手放し、担い手に集積しなければならないのか」や「原野化している農地も担い手が耕作しなければならないか」などの戸惑いや心配の声がかげられましたが、丁寧に説明したことで制度の理解を深められた様子でした。

今後、各市町では、地区における協議を実施し、令和7年3月末までに、気仙沼市は7地区、南三陸町では4地区の計画策定を行う予定です。

普及センターでは、地域の話し合いが円滑に行われるように、関係機関と連携し、地域計画の策定を支援していきます。

宮城県RTKシステムの御案内

RTKシステムは、人工衛星からの位置情報に加え、基地局を経由した補正情報を用いて、誤差2~3cmの高精度の位置情報を提供するサービスです。補正情報は、インターネットを経由し、直接電波が届かない場所でもネットにつながれば受信できるため、使いやすくなっています。これにより、農業用ドローンによる農薬、肥料等の自動飛行による散布、トラクター、田植え機、コンバインなどの直進アシストを高精度に行うことで、①初心者でも熟練者並みの作業精度の実現、②作業の重複回避による作業時間・コストの削減により、省力・効率化を可能にするシステムです。

宮城県では、県内ほぼ全域で利用を可能にするため、半径20kmをカバーする基地局を県内7か所に設置し、令和5年4月から運用を開始しました。

管内では、農業用ドローンでの水稲病虫害防除、追肥等に活用され作業の省力・効率化に加え、夏場の農作業の軽労化、畦畔を歩かなくて済むことなどから作業者の安全性向上にもつながっています。普及センターでは、システムを活用した作業の研修会も開催してまいりますので、是非御参加ください。



宮城県RTKシステムの概要



自動飛行の様子(7月5日実演会)

● 資材価格高騰等に伴う営農相談窓口について

肥料を含む各種資材の高騰が続き、農家経営に対して影響が広がっているため、制度資金の案内、農業者の所得確保に向けた生産コスト低減技術の助言などを行う営農相談窓口を設置しました。

- ・ 受付時間：午前8時30分から午後5時15分まで(土日・祝日を除く)
- ・ 電話番号：0226-24-2534(気仙沼地方振興事務所農業振興部)